

「形容詞＋です」述語の生起要因についての準備的考察

前川喜久雄（国立国語研究所言語資源研究系）[†]

On the Factors Influencing the Occurrence of Japanese Predicate Consisting of Adjective and ‘*desu*’: A Pilot Investigation Using BCCWJ

Kikuo Maekawa (Dept. Corpus Studies, NINJAL)

1. 問題の所在

本稿では現代日本語の書き言葉において形容詞に助動詞の「です」が直接後続して文末を形成しているタイプの述語の成立要件を、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下BCCWJと呼ぶ）を用いて検討する。

日本語のいわゆる述態の文の述語には、名詞述語、形状詞述語、形容詞述語、動詞述語の4種類が存在することは広く認められている。またこれら4種の述語が名詞ないし形状詞述語のグループと形容詞ないし動詞述語のグループとに下位区分されることについても大方の意見は一致していると思われる。

この下位区分の根拠は、名詞ないし形状詞が単独で述語を構成することができず、述語を成立させるためにはいわゆる断定の助動詞（「だ」「です」の類）を必要とするのに対して、形容詞ないし動詞述語はそれら単独で述語を構成しうるという点にあるのだと考えられる。しかし、実際に用いられている日本語の用例中には形容詞に「です」が直接接続して述語を構成している例を容易に見つけ出すことができる。以下ではこの種の述語を「Aです。」述語と呼ぶ（記号「。」の意味については後述）。

「この花は白いです。」のような「A+です。」述語の文は文法的な容認度が低いと判断する研究者が多い。日本語文法において「A+です。」述語がどのように扱われているかを簡単に調べておこう。

2. 日本語文法における「Aです。」述語

日本語文法における「Aです。」述語の扱いは、文法の執筆目的によって異なっている。日本語の言語学的記述を目的とした文法にあっては、これを日本語述語の一形式に認める立場はほとんど見当たらない。現代日本語文法の研究者に広く読まれていると思われる寺村(1982)や益岡・田窪(1992)などもこの立場である。¹

逆に、日本語学習者のための教科書では、「Aです。」述語を認める立場の方が一般的である。現在内外で広く利用されている教科書であるスリーエーネットワーク（1998）から例を引いておく。以下の対義語の練習問題では正解の形として「Aです。」述語があらかじめ与えられている。このような練習問題は他の教科書でも容易に見つけることができる。

[†] kikuo@ninjal.ac.jp

¹ 昭和27年4月に国語審議会が建議した「これからの敬語」では「A+です。」を「平明・簡素な形として認めてよい」としているが、ここに紹介した記述文法はこの立場をとっていない

例： タイは 寒いですか。……いいえ、(暑い) です。

小さい	古い	易しい	忙しい	暑い
-----	----	-----	-----	----

- 1) あした 暇ですか。……いいえ、() です。
 - 2) あなたの 会社は 新しいですか。……いいえ、() です。
 - 3) 日本語は 難しいですか。……いいえ、() です。
 - 4) あなたの うちは 大きいですか。……いいえ、() です。
- (p.70)

日本語教育において「A です。」述語を認める立場がいつから存在するかは明らかでないが、筆者の手許にある文献の調査によって知りえた範囲では、フランス語で執筆された日本語教科書である Mori(1972)に見つかる説明が最も早い時期のものであった。P.28 の説明では「です」が括弧に入れて示されているが、P.33 では括弧なしに「A です。」述語が用いられている。

Les mots de qualité variables, à savoir les adjectives japonais, sont susceptibles de modifications morphologiques comme les verbes.

a) Les adjectifs peuvent conclure une phrase comme les verbes.

ex: *Kore-wa utsukushi-i (-desu)*. これはうつくしい (です). Ceci est beau.

(p.28)

Phrase-exemples:

- 1) *Kore-wa akai hana-desu*. これあかいはなです。 C'est une fleur rouge.
 - 2) *Kono inu-wa shiroi-desu*. このいぬはしろいです。 Ce chien est blanc.
 - 3) *Sono hana-mo akai-desu*. そのはなもあかいです。 Cette fleur, elle aussi, est rouge.
- etc.

(p.33)

学習者文法において「A です。」述語が普通に受入れられているのは、現実の日本語の反映である可能性がある。以下ではその可能性を大規模なコーパスを用いて検証し、次いで「A です。」述語の成立要件を検討する。

3. 分析

3. 1 データ

検証用データとして BCCWJ の形態論情報を利用する。検索には BCCWJ の形態論情報検索用 Web インターフェースである『中納言』を用いる。このデータとインターフェースは公開されているので読者による追試が可能である。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』については前川 (2008) 等参照のこと。

3. 2 形容詞述語の生起頻度

最初に形容詞述語全般において「A+です」述語が占める量的な地位を明らかにしておく。形容詞述語には、形容詞だけで構成されるもの(「A。」)、形容詞に準体助詞「の」(ないし

「ん」が後続してその後に「です」が後続するもの（「A+の+です。」）、「A+です」に終助詞が後続するもの、「A+です+終助詞。」、形容詞に「です」の推量形が後続するもの（「A+でしょう。」）等があるが、これらの述語については「A+です。」のように容認度が問題とされることはない。

これらの形容詞述語の生起頻度を『中納言』を用いて検索した。下に「A+終助詞。」タイプの形容詞述語の検索に利用した検索式を示す。この検索式は「キーに指定された短単位の品詞が形容詞で、その直後に品詞が終助詞の短単位が後続し、さらにその直後に文字『。』が出現している用例を BCCWJ 全体について検索せよ」を意味している。文末の判定は記号「。」で行っており、「？」や「！」は対象としていないことに注意。このようにして検索した形容詞述語各タイプの頻度を表 1 にまとめた。例末尾の記号は BCCWJ のサンプル ID である。

キー: 品詞 LIKE "形容詞%" AND 後方共起: 品詞 LIKE "助詞-終助詞%" ON 1 WORDS FROM キー AND 後方共起: 出現書字形 = "." ON 2 WORDS FROM キー WITH OPTIONS unit="1" AND tglWords="20" AND tglKugiri="" AND tglFixVariable="2"

表 1 で最も生起頻度が高いのは形容詞が単独で述語を構成する「A。」であるが、問題となる「A+です。」述語はそれに次いで高い生起頻度を示している。殊に「A+です。」の頻度が文法的な容認度に問題がないとされる「A+の+です。」の頻度よりも高いことは注目に値する。表 1 は、量的にみるかぎり、「A+です。」述語が決して特異な言語現象ではないことを明瞭に示している。

表 1: 様々な形容詞述語の頻度

述語タイプ	頻度	例 (サンプル ID)
A。	108,081	いろいろ問題も多い。(LBk9_00121)
A+です。	11,154	果物もとても多いです。(LBk3_00042)
A+の+です。	6,697	偏食になってしまうことも多いのです。(LBa6_00006)
A+です+終助詞。	10,408	女性が多いですね。(LBd7_00001)
A+でしょう。	5,675	心と体を病んでいる人が多いでしょう。(LBe3_00075)

3. 3 「A+です。」述語になりやすい語となりにくい語

次に「A+です。」述語になりやすい形容詞とそうでないものがあるかという問題を検討した。「A+です。」述語になりやすさを以下の式で計算することにした。この値を以下では「%A+です。」と呼ぶことにする。

$$\text{「A+です。」述語の頻度} \div (\text{「A+です。」述語の頻度} + \text{「A。」述語の頻度}) \times 100$$

BCCWJ に含まれる出現頻度が 30 以上の形容詞（短単位）について「%A+です。」を計算

した。最上位 20 語と下位 20 語を表 2, 3 に示す。上位は単純に「%A+です。」が最も高い語を選んでいるが、下位には「%A+です。」がゼロのものが多数並ぶので、表 3 には「A+です。」述語が少なくとも 1 回生じている語について「%A+です。」が低いものを掲載した。

表 2 : 「%A+です。」最上位 15 語

形容詞	語形	「A。」頻度	「A+です。」頻度	%A+です。
うざい	ウザイ	22	25	53.2
嬉しい	ウレシイ	571	625	52.3
羨ましい	ウラヤマシイ	79	77	49.4
しんどい	シンドイ	30	27	47.4
美味しい	オイシイ	410	362	46.9
辛い	ツライ	228	190	45.5
怖い	コワイ	324	240	42.6
有り難い	アリガタイ	231	157	40.5
寂しい	サビシイ	125	80	39.0
臭い	クサイ	36	22	37.9
痛い	イタイ	271	163	37.6
きつい	キツイ	87	49	36.0
悔しい	クヤシイ	62	34	35.4
待ち遠しい	マチドオシイ	28	15	34.9
悲しい	カナシイ	105	55	34.4

表 3 : 「%A+です。」下位 15 語

形容詞	語形	「A。」頻度	「A+です。」頻度	%A+です。
明るい	アカルイ	139	5	3.5
心地良い	ココチヨイ	87	3	3.3
無い	ナイ	59,127	1,926	3.2
疑わしい	ウタガワシイ	67	2	2.9
新しい	アタラシイ	114	3	2.6
荒い	アライ	39	1	2.5
望ましい	ノゾマシイ	489	12	2.4
乏しい	トボシイ	91	2	2.2
珍しい	メズラシイ	221	5	2.2
根強い	ネヅヨイ	53	1	1.9
久しい	ヒサシイ	60	1	1.6
等しい	ヒトシイ	245	4	1.6
凄まじい	スサマジイ	63	1	1.6
鋭い	スルドイ	72	1	1.4
相応しい	フサワシイ	122	1	0.8

3. 4 形容詞の意味特性クラス

表 2, 3 を比較すると「%A+です」の値に形容詞の意味特性が影響している可能性が窺われる。表 2 にはいわゆる感情形容詞の類が多く、表 3 には状態形容詞の類が多い。日本語の形容詞においては、話者（書き手）の主観的感情を表現するものとそうでないものとで

文法的なふるまいが異なることは多くの研究者が認めている。例えば寺村(1982)は、形容詞による感情表現を「感情状態の直接表現(～がコワイ)」、「感情的判断(～がオソロシイ)」、「属性規定(～が丸イ)」に三分類したうえで、「感情状態の直接表現」タイプの形容詞について、「感情をもつ主体が第三者だと不自然な文になる(p.145)」と指摘している。

このような形容詞の意味特性と「%A+です。」の間に相関が存在しているかを検討するために、BCCWJに生じている全形容詞を3種に分類した。分類基準は「話し手の感情、主体的感覚を直接表現」していると判断できて、「私が／は～」(「～」の部分が「A+です。」述語)が自然なものをType1、「対象の属性についての話し手の感覚ないし主観的価値判断の表現」と判断できて、「私が／は～」が不自然なものをType2、そして「対象の属性の客観的表現」とみなされるものをType3と判断した。

ただし実際の作業にかかると、明らかにType1ではないが、Type3とは判断しにくい形容詞が多数存在していたので、それらはType2に分類した。また形容詞に多義性が認められ、それが分類に影響することが一部にあった。その場合は量的に優勢な用法の意味について判断をくだし、個々の用例レベルでの分類は施さなかった(この問題については3.6節参照)。

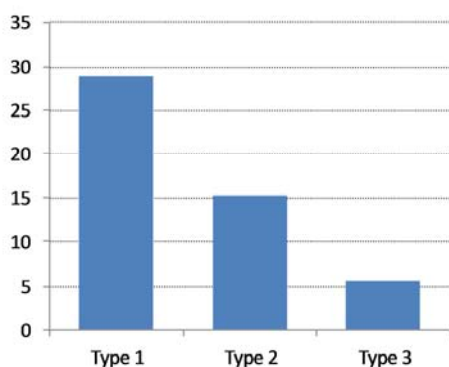


図1: 形容詞の意味特性と「%A+です。」平均値の関係

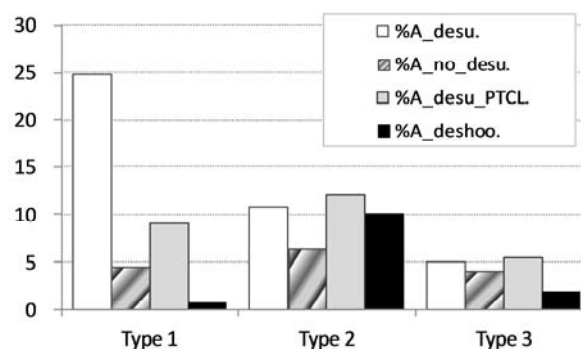


図2: 形容詞の意味特性と各種形容詞述語タイプの生起率の関係

この判定作業は筆者が単独で実施した。以下ではこの判定結果を形容詞の「意味特性クラス」と呼ぶことにする。意味特性クラスごとの「%A+です。」の平均値を図1に示す。形容詞の主観性が高いほど「A+です。」の生起率が上昇していることがわかる。

このような関係が他の形容詞述語タイプにも認められるかどうかを検討した結果を図2に示す。ここでは各述語タイプの生起率を以下の式で計算しているため、図2中の「A+です。」述語の生起率(%A_desu)は図1における生起値よりも低い値をとっている。また図2ではグラフの見やすさのために「A。」述語の生起率を示すバーを省略している。「A。」述語の生起率(%A.)はType1で60.9%、Type2で60.4%、Type3で83.7%である。

$$\text{述語タイプ X の生起率} = \frac{\text{述語タイプ X の頻度}}{\text{全形容詞述語の頻度}} \times 100$$

図2においても「A+です。」述語の生起率と形容詞の意味特性の間には図1と同様の相関

が存在している。しかし他の形容詞述語タイプについては同様の相関を見てとることができない。形容詞の意味特性は「A+です。」述語に限って機能する制約である。

3. 5 レジスターの影響

図1ではType3の形容詞群においても「A+です。」述語が5%程度は生起している。この事実は、形容詞の意味特性が「A+です。」述語の生起に関わる絶対的な条件とはなっていないことを示すと同時に、形容詞の意味特性以外にも「A+です。」述語の生起に関わる重要な要因が存在する可能性を仄めかしている。

そのような要因の候補として有力と考えられるのが言語のレジスター(register)である。レジスターという用語は音声学と言語学において最も多義的に用いられている専門用語のひとつであるが、ここでは「言語が実際に運用される場の社会的状況—例えば発話の目的、発話者の属性、受容者との関係など—に依存して定まる言語の変種で、発話の全体にわたって分布する言語特徴によって決定されるもの」という意味で用いている。

BCCWJにはこのような意味でのレジスターについてのアノテーションは施されていないので、サンプリングの際に利用した媒体をもってレジスターの代用とする。

表4にレジスターによる「%A+です。」の変動を示す。表の第1列はレジスターの略称であり第1文字目の「P」「L」「O」はBCCWJのサブコーパスである「出版サブコーパス」「図書館サブコーパス」「特定目的サブコーパス」に対応している。詳しくは丸山他(2011)参照。

表4：BCCWJのレジスターによる「%A+です。」平均値の変動

略号	レジスター	A。	A+です。	%A+です。
OL	法律	296	0	0.0
OV	韻文	39	0	0.0
OW	白書	1,772	0	0.0
OT	教科書	1,015	4	0.4
OB	ベストセラー	5,917	35	0.6
LB	図書館書籍	44,058	296	0.7
PN	出版新聞	1,676	11	0.7
PB	出版書籍	35,634	353	1.0
PM	出版雑誌	5,724	131	2.2
OM	国会会議録	924	55	5.6
OY	ブログ	7,879	2,314	22.7
OP	広報誌	197	72	26.8
OC	ネット掲示板	2,950	7,883	72.8

表4は、レジスターが「A+です。」述語の生起率に強い影響を及ぼしていることを示している。「法律」「韻文」「白書」における生起率が0.0%であるのに対して、「ブログ」と「広報誌」の生起率は20%を超えており、就中「ネット掲示板」(Yahoo!知恵袋)における生起率は70%を超えており、飛びぬけて高い値となっている。

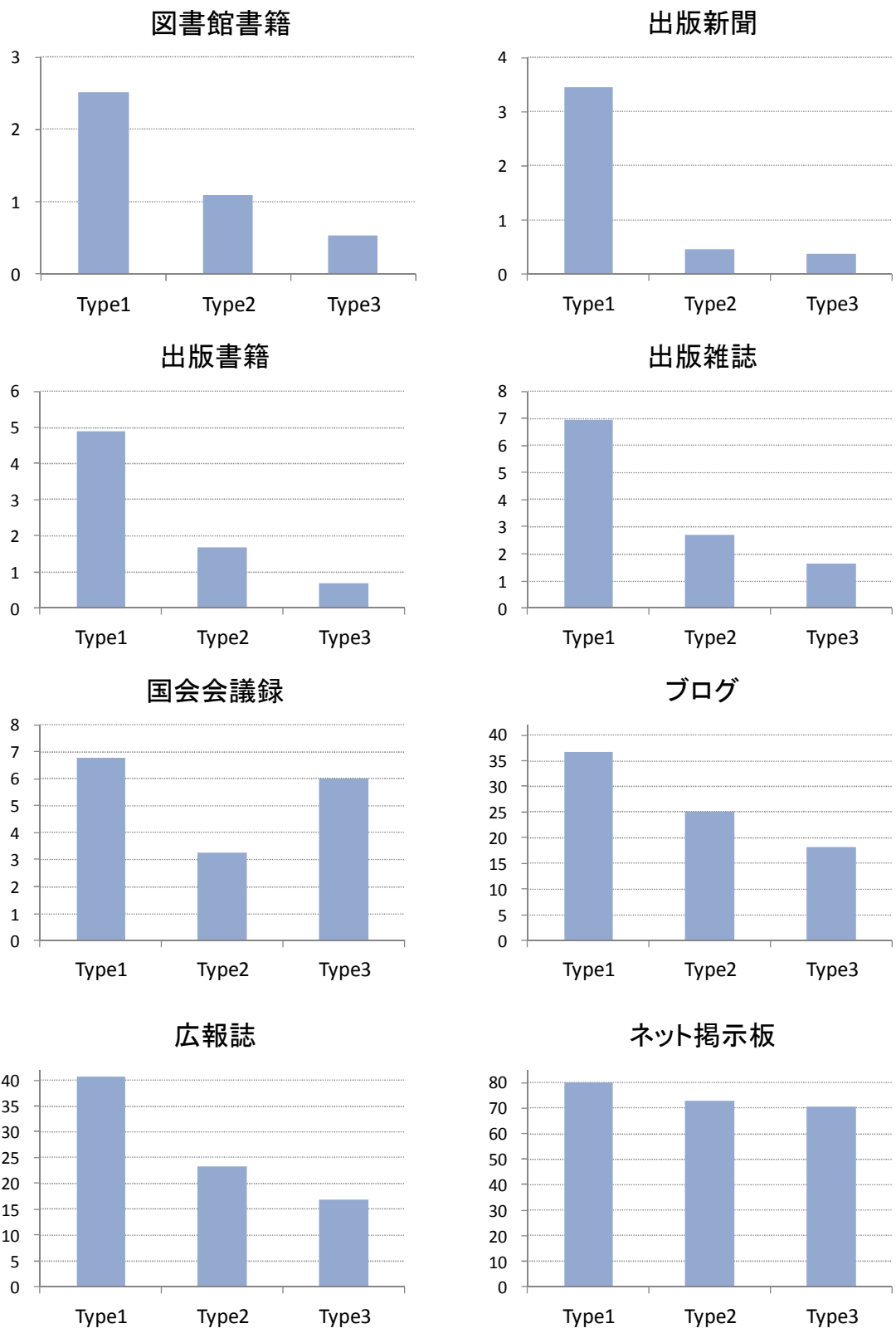


図 3 : 形容詞の意味特性とレジスターの相互作用

3. 6 形容詞の意味特性とレジスターの関係

ここで問題になるのが、形容詞の意味特性とレジスターの関係である。両者は相互に独立して「%A+です。」に寄与するのか、あるいはそこに何らかの相互作用が存在しているのか。この問題を統計的に検討する手始めとして、形容詞の意味特性の影響をいくつかのレジスターにおいて確認しておくことにする。

図3は表4において「%A+です。」が最も低い5つのレジスターを除外した残り8種のレジスターについて図1と同様のグラフを描いたものである。横軸が形容詞の意味特性、縦軸が「%A+です。」である（縦軸のレンジがレジスター毎に異なっていることに注意）。

ここでは国会会議録を唯一の例外として、図1同様、Type1>Type2>Type3の関係が成立している。国会会議録ではType3に分類される「良い」の頻度が高く(N=81)、「%A+です。」も高い(15.9%)のが例外の原因だが、これは国会で質問者が回答者に対して「もういいです。」「まあいいです。」「それでいいです。」等の発話を多発していることによる。典型的な「良い」の用法とはずれた用法であり、むしろType1に近いと考えられる。

次に形容詞の意味特性とレジスターを要因とする二元配置分散分析を実施した。分析にはR言語(Ver. 2.12.1)を利用した。形容詞の意味特性(df=2, F=4849, p<.0001)とレジスター(df=12, F=1015, p<.0001)はともに有意であり、両者の相互作用項(df=21, F=35, p<.0001)も有意である。

ここで問題になるのが相互作用の性格である。この相互作用は図3からわかるようにType3形容詞の「%A+です。」がネット関係のテキスト、殊にネット掲示板で極端に高いことに起因していると考えられる。つまり国会会議録は除外すれば、他のレジスターにおいてType3形容詞の「%A+です。」はType1形容詞の3分の1以下の値をとっているのに対して、ブログでは2分の1程度、ネット掲示板では8割程度に高止まりしていることが原因だと考えられる。

4. 議論

4. 1 まとめ

前節の分析で「A+です。」述語の生起に影響を及ぼす要因には、言語的要因として形容詞の意味特性、語用論的要因としてレジスターの二つがあることが確認できた。意味特性に関しては主観性の強い形容詞ほど「A+です。」述語になりやすく、レジスターに関してはネット関係(ブログとネット掲示板)と広報誌において「A+です。」述語が生じやすい。両者の効果は基本的には独立しているが、ネット関係のレジスターでは形容詞の意味特性の効果をレジスターが凌駕している。

4. 2 待遇表現としての「A+です。」

ネット掲示板などで「A+です。」の生起頻度が高いのはなぜだろうか。これらのレジスターでは「A+です。」述語が一種の待遇表現として用いられている可能性が高い。ネット掲示板では質問者は「教えてもらえると嬉しいです。」の類の表現を頻繁に用いており、回答

者も特定の質問者を念頭において回答を執筆するので、待遇表現が働きやすいであろう。

これと同じ特徴は広報誌の読者欄にも認められる。また役所が制作する文書であるので、読者として想定する地方自治体の住人に対して待遇意識が働くのは、昨今の世相においては当然である。ブログの内容は様々であるが、読み手からのフィードバックが可能であるという点で、通常の本と比較すれば、執筆に際して書き手が読み手を強く意識するレジスターであることは間違いない。

4. 3 例外の説明

4.1 節の分析と説明には、検討すべき問題が3点あると思われる。第一にこの説明が正しければ、図1においてType3形容詞に生じていた「A+です。」述語はネット掲示板ないしブログに生じていることが期待される（広報誌は形容詞述語の頻度そのものが低いので説明力を期待できない）。データを分析するとこの予想が正しいことがわかる。図1のType3に生じた「A+です。」述語の71.4%がネット掲示板に、20.3%がブログに生じており、両方で例外の9割が占められている。

4. 4 サンプルの文体

レジスターの効果に対しては、そもそも「です体」（敬体）の使用率がレジスター毎に大幅に異なるはずだから、「A+です。」の生起率も、その変動を反映しているに過ぎないという批判が可能である。この問題を検討するため、レジスターごとに「です体」の使用率を

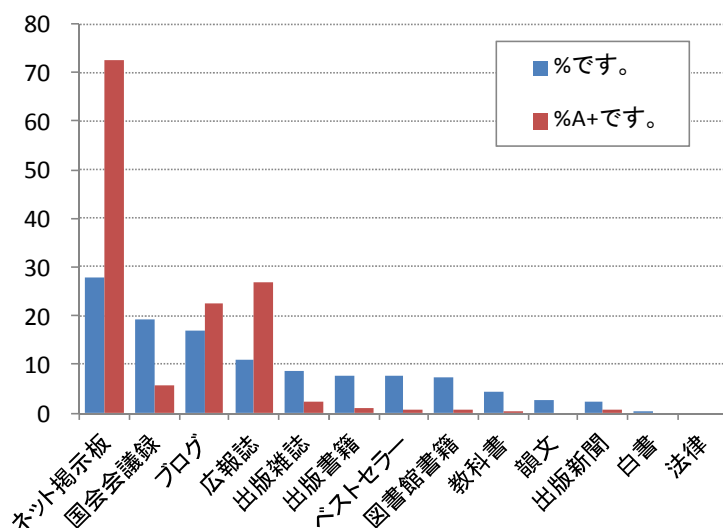


図4: 各レジスターにおける「です体」使用率と「%A+です。」の比較

しかしネット掲示板と広報誌における「%A+です。」は「%です。」よりも著しく高く、反対に国会会議録における「%A+です。」は「%です。」よりも顕著に低い。

結論として、「です体」の使用率は「A+です。」の生起率に影響を及ぼしているが「A+で

計算した。記号「。」を文末とみなして各レジスターにおける文の総数を決定し、文末直前の3短単位内に助動詞「です」が生起していれば、それを「です体」の文と認定した。

各レジスターにおける「です体」の生起率（「%です。」）と「%A+です。」とを比較すると図4の結果を得る。全体としては高い相関（相関係数 $r=0.82$ ）が認められる。

す。」述語の生起頻度の高いレジスターについては、「です体」の使用率から「%A+です。」を予測することは不可能であるか、きわめて困難であると考えられる。

4. 5 書き手の年齢

最後に「A+です。」述語の社会言語学的動向を知るために、使用者の年齢を検討する。図5は、BCCWJのデータのうち比較的時間幅の広いサンプルを収録しており、同時に書き手の生年代の情報が得られていることの多い「図書館書籍」と「ベストセラー」のサンプルを用いて、10年区切りの生年代と「%A+です。」の平均値の関係を調査した結果である。形容詞述語の頻度が100未満の生年代は除外していること、また横軸は書き手の生年代であって、個々のサンプルの執筆年代ではないことに注意。

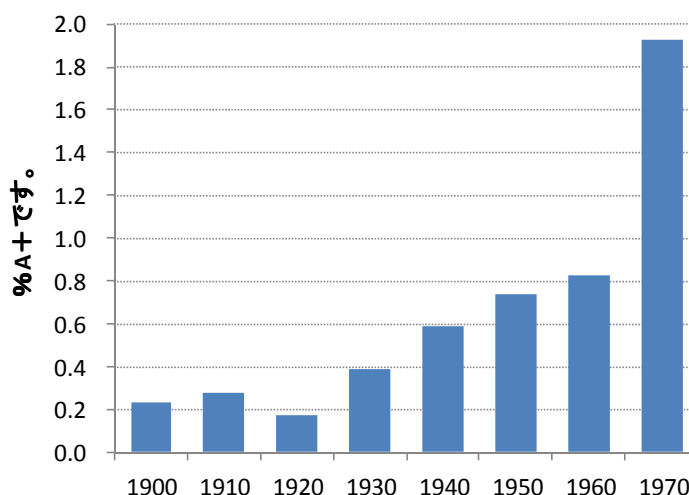


図5: 書き手の生年代と「%A+です。」の関係

図5では、「A+です。」が頻繁に用いられるネット掲示板、広報誌、ブログの3レジスターのデータを利用

していないので、「%A+です。」は全体的に低い値にとどまっているが、書き手の年齢が低下するにつれて「A+です。」述語の使用率が上昇する傾向を見てとることができる。特に1960年代から1970年代にかけて著しく上昇していることは注目に値する。

5. 残る課題

今回の調査がカバーしていない形容詞述語の形(例えば過去形)を調査する必要がある。また4.2節で述べた待遇表現としての「A+です。」という仮説をより精緻化する必要がある。

参考文献

- スリーエーネットワーク(1988).『みんなの日本語 初級I本冊』スリーエーネットワーク.
寺村秀夫(1982).『日本語のシンタックスと意味I』くろしお出版.
前川喜久雄(2008).「KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の開発」日本語の研究, 4(1), pp.82-95.
益岡隆志・田窪行則(1992).『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版.
Mori, Arimasa (1972). *LEÇON DE JAPONAIS*. Taishukan, Tokyo.
丸山岳彦・山崎誠・柏野和佳子・佐野大樹・秋元祐哉・稲益佐知子・田中弥生・大矢内夢子(2011).『「現代日本語書き言葉均衡コーパス」におけるサンプリングの原理と運用』国立国語研究所内部報告書 LR-CCG10-01.

謝辞: この研究は国語研基幹型共同研究「コーパス日本語学の創成」によるものです。共同研究発表会を含め、様々な機会にコメントをいただいた方々に感謝します。